

令和7年度第1回 那珂市自転車活用推進協議会 会議録(案)

1 日時 令和8年2月18日(水)午後2時～午後4時

2 場所 那珂市役所4階庁議室

3 出席者

(1)出席委員

- ・会長 平田 輝満 委員(茨城大学大学院 理工学研究科 都市システム工学領域 教授)
- ・副会長 東ヶ崎 利信 委員(いばらきサイクリング協会 理事)
- ・絹代 委員 (有限会社 Saq-Saq STATION サイクルナビゲーター)
- ・峯岸 行生 委員(グリーンサイクル・エム 代表)
- ・中庭 大輔 委員(那珂市商工会青年部長)
- ・堀田 俊和 委員(住民代表(市内在住サイクリスト))
- ・高野 清彰 委員(茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室長)
⇒代理出席:吉岡 博之(茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室 技佐)
和田 雅大 (茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室 主任)
- ・一澤 孝夫 委員(茨城県常陸大宮土木事務所 道路管理課長)
- ・中島 太郎 委員(茨城県警察那珂警察署交通課長)
⇒代理出席:入江 範(茨城県警察那珂警察署交通課 企画規制係長)

(2)幹事

- ・企画部長 加藤 裕一
- ・市民生活部長 秋山 光広
- ・保健福祉部長 生田目 奈若子
- ・産業部長 大内 正輝
- ・建設部長 高塚 佳一

(3)事務局

- ・政策企画課:課長 金田 尚樹、課長補佐(総括) 浜名 哲士、
課長補佐(政策企画グループ長)小関 一生、係長 齋藤 哲生
主査 渡邊 荘一

(4)その他

- ・那珂市長 先崎 光 ※途中、公務のため中座

4 欠席者

- ・瀬谷 尚男 委員(茨城県政策企画部 スポーツ推進課長)
- ・國井 元耶 委員(木内酒造株式会社)
- ・幹事 教育部長 浅野 和好

5 協議事項

- ・施策の実績報告及び今後の取組について

6 会議内容

○事務局(小関課長補佐(政策企画グループ長))

本日は大変お忙しい中、ご出席頂きまして、誠にありがとうございます。

この協議会は、那珂市自転車活用推進計画の施策の進行状況について、年度末に開催させていただき、1年間の活動内容を報告するものでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

では定刻を回りましたので、ただいまから令和7年度第1回那珂市自転車活用推進協議会を開会いたします。私は本日の進行を務めます政策企画課、政策企画グループ長の小関と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の協議会への参加者は出席者名簿のとおりでございます。

高野委員、中島委員につきましては、本日所用により、出席できないため、代理として茨城県道路維持課、道路保全強化推進室吉岡技査、茨城県警察那珂警察署交通課、企画規制係長、入江様がそれぞれご参加頂いております。

なお、瀬谷委員、國井委員につきましては、本日、急遽所用により欠席とのご連絡を頂いておりますので、あわせてお知らせいたします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

まず初めに、先崎市長よりご挨拶を申し上げます。

○先崎市長

皆さんこんにちは。那珂市長の先崎でございます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中をお集まり頂きまして、誠にありがとうございます。

本市ではご存じのように、那珂市自転車活用推進計画に基づいて、自転車を活用した地域の活性化、交通安全意識の向上などに取り組んでいるところでございます。

今年度、例年開催をしているハーフセンチュリーいばらきサイクリング大会、40回目を迎えるということになりました。そしてJR東日本水戸支社様と連携しましたデジタルスタンプラリー、駅からサイクリングなどの企画にもエントリーをさせていただいております。

平田先生も関わっていらっしゃると思うんですけど、この茨城県で、日本一苛酷なレースという、奥久慈クロスという自転車王国地区で、素晴らしいイベントが昨年、今年度ですね、開催されました。県外あるいは市外からもたくさんのサイクリストの皆さんにおいて、茨城県初め本市の魅力なんかも発信をさせていただいたところでもあります。

また絹代さん、完成していただいた映像が、本当に那珂市っていいなというふうに改め

て実感をする。こんなものをご協力頂きましてありがとうございました。

昨年それから皆さんご存じでしょうけども本市にある茨城県植物園、これがもう50年ぶりぐらいにリニューアルされて、全国初の泊まれる植物園ということで、夜の植物園なんかも楽しめるライトアップした、非常に今好評を博しております、こういったものも生かして、地域の魅力を発信し続けていきたい。

そして、もう3年を切りましたけども、令和10年の秋には、那珂市の道の駅をオープンする予定で今進めておりますので、これもこれまでにない趣があった道の駅を目指しておりますので、いろんな意味での相乗効果が期待できると思います。

また、そういったものをつなぐ貴重なアイテムとしてこの自転車も活用がさらに図れるんじゃないかと。新しく整備する、植物園と、全部じゃないですけども結ぶ。片側2車線の道路には、那珂市初の自転車専用道路も、整備したいと思っておりますので、歩道と自転車道、車道ということになります。余裕があればそういったものをどんどんつくりたいんですけどもなかなかそうもいきません。大きな新しい道路をつくるときに、思い切ってそういったものも整備していこう、そして、多くの市民の方々の自転車ライフを支えていこうということで、これからのできる取組を進めていきたい、そのように思っているわけでありまして。

これからも、こういう地域の経済、そして生活環境の豊かさを求めて、そして健康増進も含めて、この自転車活用推進計画を進めていきたいと考えておりますので、皆さん方には今後ともよろしくお願いを申し上げます。

本日は、先ほど、事務局のほうからありましたように1年間の取組を皆さんで総括をしていただくということでありますので、どうぞそれぞれのお立場からの忌憚のないご意見を賜りまして、会議のほうが無事終わってまた次回につながっていけばありがたいなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

なお、私次のちょっと業務ありまして、途中で中座をさせていただきます。よろしくお願いをいたします。ありがとうございました。

○事務局(小関課長補佐(政策企画グループ長))

はい、ありがとうございました。続きまして、平田会長よりご挨拶をお願いいたします。

○平田会長

皆さんお久しぶりでございます茨城大平田です。年に1回ですけど、今回は少し前に絹代さんと堀田さんにお誘い頂いて、那珂市を走りまくったって言ったら、絹代さんからしたら、そんな短い距離で走りますなんて言うなって怒られそうですけど、さっきのかわいらしい自転車乗って結構僕へとへとでしたけど、食べ過ぎてもうそっちで大満足でした。

今の先崎市長さんからの言葉聞いて那珂市の将来が楽しみになって、あとこの組織です、今5年目でしたっけ、5・6年経って、何かこうちょっとルーティンになってきたかなという感じがしたんですけど、リンネと新しい道の駅、さらには自転車専用通行帯という自転車道ですか。

今日ご紹介があるかわからないですが、今、国の基本計画、自転車活用推進計画の第

三次計画のパブコメが先週終わってしまったかな。ぱっと見は変わってないようにも見えるんですけども、かなり思想の部分が変わっているらしく、目標がいろいろ五つぐらいあって、サイクルツーリズムは、茨城県自体がかなりこう前面でやっている。日常使いもそうですし、健康というところもそうですが、でも5番目か4番目に下がったんですね。今回、1番上というか、実質1番上、2番目にそのためのベースとなる安全性の確保のところ、別に優劣順位があるというわけではなかったんですけど来たんです。今まで矢羽根引いて終わりみたいな、あれは暫定、あくまで暫定なんですね。本格的には、市長おっしゃったとおり、快適で安全な専用通行帯をつくるというところを目指してやってなきゃいけないということで、何か矢羽根引いて終わりみたいな空気が何か日本全国に広まったので、そうじゃいかんというふうに国が多分かじを切ったのだと思う。実際はなかなか難しいんですけども、でもそういう意識を持ってやり続ける先に10年20年後に何か非常に快適な自転車利用環境があって、さらに車に依存しないような、自転車で楽しめる、市民も外から来る人も自転車で楽しめる観光振興もできる地域活性化もできるということがですね、何かちょこちょこ言葉が変わって全面に出していますので、その思想を一部那珂市さんが、先行してやられているというふうにも言えるんじゃないかと思えますし、もしそれを先取りして、やれたらですねまた全国をリードできるような、市町村になるんじゃないかなって期待を今の市長のご挨拶で、聞いて改めて思いました。

また今日も皆さんからですね、忌憚のない本音トークのご意見を頂いて、真に市民の方、外から来る方に必要とされる自転車利用環境を那珂市が作って全国に発信できればなどというふうに思います。

今日、絹代さん久しぶりに対面で来ていただいたので、いつもオンラインでもお話いただいていますけれども、ぜひ今日もよろしく願いいたします。

○事務局(小関課長補佐(政策企画グループ長))

ありがとうございます。続きまして、当協議会の幹事及び事務局職員の紹介をさせていただきます。

<出席幹事、事務局 紹介>

それでは、次第の3、協議事項に入ります。この後の議事の進行につきましては、協議会設置要綱第5条第1項の規定によりまして、会長が会議の議長となりますので、平田会長に議事進行をお願いします。

○平田会長

はい。承知しました。それでは議事、この3番目の協議事項ということで施策の実績報告及び今後の取組について、まず事務局からご説明をよろしく願いいたします。

○事務局より資料説明

<・施策の実績報告及び今後の取組について【資料1】>

<・計画目標の達成状況について【資料2】>

<・市内で発生した自転車関連交通事故の状況について(H31～R7)【参考資料】>

○事務局

審議の前に、資料の訂正がございます。4 ページのサイクルサポートステーションの登録施設一覧で、35、36、37、38 の施設の分類が民間となっておりますが、公共の誤りでした。訂正をお願いいたします。

○絹代委員より動画説明

<「茨城地域魅力開発促進委員会(那珂市のサイクリング魅力発信)」で作成した動画を会議室で放映して内容を説明していただきました>

○平田会長

ご説明ありがとうございました。

それでは、今の絹代さんへ質問でも結構ですし、ひと通り、ご説明頂きましたので、皆様から、ご意見ご質問等々頂ければと思います。堀田さん。

○堀田委員

はい、お疲れさまです。たくさんビデオにも登場させていただいて、ふだんはガイドをやっています、なるべく姿を出さないで、お客様のほうばかりの撮影なんです、今回、絹代さんにもいっぱい映像に出してもらって、ふだんロードといったものだと本当にサイクリストという形で走らせてもらっていますが、それを脱いで、本当にジープンでもお気軽な軽い服装でも、そういう自転車乗りがたくさん来てもらう、なるほどこういう進め方のスタイルもあるんだなというのがよく分かりました。

あと、ふだん言っていることですが、なるべく信号のないところ、それと田舎道、うちの田んぼの前通ったとか、そういったようなことも極力進めています。危なくない範囲でやっていますけど、喜ぶんですね。お客さんが遠くから来られる、特に外国の方なんかは、田んぼの稲穂とか見ると、本当に、何か泣いている人もいたぐらいですから、那珂市のサイクリングでも、そういうことで、まだまだ掘るところはたくさんあると思います。

那珂市はこれからだと思います。もう頑張ってください、やっていきたいです。よろしくをお願いします。

○平田会長

今あるネットワーク計画、日常生活と観光ルートなんかも考えてネットワークつくった記憶もありますけど、僕も走った3ルートは、独特のもので、今の那珂市のルートに入っているのか、リンクもあるのかわからないけど、それを何か観光用のモデルルートというのか、何かちょっと別軸でね。

○中庭委員

自転車を通して、皆さんが危なくないルート、これは車もそうですけど、歩行者、自転車、皆さんが安全に安心して通れる道を、市長もさっきおっしゃってくれたので、整備が進むといいなと思っています。

それに伴って、商工会のメンバーさんのお店とかそういうところにも、人とのつながりができればいいかなと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

○絹代委員

そうですね。マップをつくって、どこまで落とし込むかというところで、ちょっとその了解をとらないといけない部分があって、やはり私たちもサイクルツーリズムやる中で土地にお金が落ちないと。ただの危険が増えるだけになってしまうのでやっぱりそこで買ってもらう、意見を取り寄せ、そんなことしてもらおう。何かいい仕組みができたらと思います。

○中庭委員

ぜひ今の商工会も使っていただければ、よろしくお願いします。

○平田会長

また引き続きよろしくお願いします。

はい。それで先ほど、モデルルートとか、今ネットワーク計画と別立てでやられる可能性ももしあれば、ぜひ、こういうお話を具体のルートがあると考えやすいですね。

○絹代委員

一本でいいんで、テッパン一本つくって、リンネスタート、リンネゴールそのあとご飯食べますお風呂入ります。何かつくりたいですね。

○平田会長

それは事務局さんどうぞ、そういう計画もある。

○事務局(渡邊主査)

はい先ほどの説明資料の中にいくつか書かせていただいたんですけども、やはり植物園ができたということが大きいので、まして今後、道の駅もできる予定なので、サイクリングルートの見直しも今後、検討していく予定です。

○平田会長

そこにさっき市長さん言った、自転車道つきの新しい道路ができる可能性があるということですね。

○事務局(渡邊主査)

自転車道路がついてる道路は、インターおりまして道の駅ができる予定ですが、そのバードラインという横の道路、ここが4車線になって自転車道もつく道路になる予定です。インター出たところから118号までが、自転車道つきの道路ということで今計画しており、幅員が27メートル。自転車道2メートルの予定です。

○平田会長

すごいそれは市道か、県道か。

○事務局(渡邊主査)

市道です。整備してそこからリンネまでのルートができる。なかなかお金の問題もあるんですけども、つながるルートができる形ですね。

○平田会長

それはすごいですね。それと、もちろん全部自転車道でネットワーク化するのは、急には無理なんですけど。途中矢羽根でもいいですけど、そういうネットワークでつないでいくというのは大変重要なので、先ほどのモデルルートかどうか分かりませんが、セットでハード整備もぜひ足並みそろえてやっていただければと思います。

リンネは県の施設ですね。そうすると県もそこへのアクセスの自転車サイクルツーリズムでお金をたっぷりつけてくれるなんてことはありませんか。

○事務局(浜名課長補佐(総括))

今のお話で補足させていただきますと、県のスポーツ推進課さん、あと林政課さんのほうには、実は絹代さんがいろいろご協力頂くときに、それとは別なんですけど、皆さんからお話を頂いたようなことを実はちょっとつないでいまして、来年、県のほうのスポーツサイクル関係の交付金がまた、新規で国のほうに申請するのに合わせまして、今後、またそういう関係機関の方と協力しながら、リンネさんとも検討していこうと思うんですけど。リンネさんがまだ忙しいので、ちょっと落ちついてからその話をするようになっております。令和8年度ぐらいから、そういうところをやれていけばいいかなと思います。

ぜひ、そのとき皆さんにまたいろいろご意見とかお伺いしながら進めていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

あわせて道路維持課さんとか皆さんにもそのハード整備とか、いろいろお世話になっていきますので、市全体でちょっと皆さんにご協力頂きながら進めていければと思いますのでよろしくお願ひします。

○平田会長

絹代さんちょっとへとへとだから、地元でサポートしてお願ひします。

あとはそういう市民の方も関心持てるきっかけでもあるので、もっと市より多くの市民の

方を巻き込んで、そういう議論に参加してもらって、市からこうなりましたって決まったこと言うだけじゃなくて、一緒にそういうのを考えるっていうか、そのフェーズが大変重要だと思いますので、その先の活用も考えると、ぜひその辺も含めてご検討頂ければと思います。

いかがでしょうか。どなたか。

○副会長 東ヶ崎委員

資料のほうの質問ですけど、11 ページの自転車ヘルメットサミットっていうのが行われたと思うんですが、そこでも、高校生のヘルメットをかぶらない理由ということで髪がみだれるとか、恥ずかしいとか、荷物になるとかっていう、マイナスの意見は出ているんですが、どうしたら高校生がかぶれるか。どういうデザインだったら被ってもいいよという意見はあったのかなと思ひまして、それとちょっと聞きたいなと思うんですが。

○事務局(渡邊主査)

私も参加しまして、そこに出席した方はヘルメットのメーカーの方とか、あと建築現場の常にヘルメットをかぶっている方、本当にサイクリストのヘルメットをかぶっている方、あとは白バイ隊のヘルメットをかぶっている方とか、いろんな話でヘルメットの安全性だとか話を聞いたんですけども、最終的に高校生としてやっぱり、恰好悪いっていうか、ふだんからかぶってないせいか髪型が乱れるとか、置くところがないとか、携帯ができないとか、何かいろいろな話をされました。みんなが着用していない。あとは交通ルールを守って安全に乗ればその必要ないとか、ヘルメットが荷物になるとか、究極な話、安全な道路があればヘルメットなんか要らない。道路をちゃんときれいに安全な自転車が走るような道路をつくってほしいというようなそういう意見がありました。

あとは、ヘルメットをかぶっている方もその高校生の中ではちゃんと意見を話してくれたんですけども、その方は中学校のときからヘルメットを日常的にかぶっているんで、特に違和感なくかぶってしまるという事でした。やっぱり、自分の身を守るためにはヘルメットが必要だという認識は持っている方もいらっしゃいます。いろんな意見があって、最終的にやっぱりかぶらない方がどうしても、多くなっちゃいますよねっていうような話だったと思います。

○絹代委員

はい、ありがとうございます。ヘルメットに関してお話をしたいことがいくつかあります。

まず、今ヘルメットが大人も努力義務みたいな形になっていかにヘルメットかぶっていただくかというのがあちこちで話題になっているんですけども、まず1番のハードルが見た目です。10 ページに写真があるんですけども、うち子供1年生と6年生がいて、この黄色いヘルメットをかぶれといたら登校拒否になるだろうなど。今の小学生って感覚が昔とは全然違うので見た目をすごく気にします。このヘルメットを今の小学生にかぶってもらうのは酷だなと中学生でこれをかぶるのも酷だなと。やっぱり見た目がよくないと。今の子供たちはもう感覚が大人と変わらないので、非常に厳しいんじゃないかなと思っています。

また2年3年ほど前に、部活の帰りに自転車で帰って行って熱中症で倒れて亡くなった中

学生がいたんですけれども、やっぱりこの夏が非常に暑くなっていて、これだけの空気穴だけのものですともう命の危険が、ちょっと炎天下これで走ると命の危険があるかなと感じています。

愛媛県がものすごくヘルメットの着用率が高いんですが、その理由は、高校生が自分たちがこのヘルメットだったらかぶるというアイデアを出しまして、そのアイデアに合った空気穴がしっかりあいている格好いいヘルメットが買える状態になっているので、みんな率先してかぶっていると、やっぱりその、人間ですから昔は子供だから黙ってかぶりなさいだったんですけど、今はもっと情報がしっかり行き渡っている子供たちですので、やっぱり彼らが納得して被ってくれるものでないといけないということが一つ。

あと私の周りでも2件事故がありました。ある人が時速10キロ程度で進んでいて、すごく安全を守る人だったんですけれども、横を自転車が追い抜こうとして加速をしていった。その人が右に曲がろうとしたときにはもう限界の速さで進んでいる自転車に引っかけられまして、頭から落ちて、頭蓋骨も割れ、くも膜下出血もして静脈も切れて側頭葉と前頭葉をやられたと。すぐわきを駆け抜けた自転車にやられてしまったと。

もう1件私の知り合いが普通に自転車で信号待ちか何かをしているときに、横にある施設から全速力で後ろを見ない車がバックで出てきて、その車に前から引かれてしまって、ヘルメットをかぶっていたんですけれども、あごが砕けてベロも3分の1ぐらい切除して、ヘルメットをかぶっていたために脳は大丈夫だったんですが出ていたあごは全部砕かれて、ヘルメットをかぶっていなかったら彼は即死だったと言われているんですけれども、どんなにハードの状況を整えても安全走行していてもやはりもらい事故というのが出てきてしまいます。

なので、私たちとしてもやっぱりヘルメットをかぶっていただく、特に事故が多い年齢層の方にもかぶっていただかなければいけないというところで、まずはその、学生さんに対するヘルメットの見た目を納得してもらおう。この年代で納得しないヘルメットをかぶっていると、大人になってからも二度とかぶらないというふうになりがちなので、ぜひその小学校中学校で納得がいくヘルメットを提供する。プラス、リスクがない涼しいものを提供する。その購入補助でいいと思うんですけれども、何でヘルメットが必要なのかっていう、感情論でも押しつけでもなくちゃんとデータに基づいた情報をしっかりと親に投げる。

もうひとつ、さいたま市さんが、子供乗せ、自転車に乗っている親御さんもみんなヘルメットをかぶっているんですね。どうしてこうなったんだろうと思って聞いたら、プレママ、まだその生まれる前にプレママ、プレパパを集めて、交通安全の話をして、そこに来た人には自転車の購入補助とかそういうものがつくらしいんですね。みんなそれを経たから、お子さんたちを産んだりパパママになっているので、お子さんとコーディネートしたヘルメットをかぶっていたり、ルールとしても、かなり安全に走られているので、何かこうまだまだそのヘルメットであったり安全に対してできる施策はたくさんあるなというふうに感じます。

特に、ヘルメットは死亡事故も今年度起きているということですので、ぜひそのかぶってもらえる仕掛けプラスおじいちゃんおばあちゃんは、私小学校で、おじいちゃんおばあちゃんにヘルメットかぶってねっていう仕組みをつくれなかなと思っていて、いくらかぶってといっても高齢者難しくて、これから恐らく車からシフトする人が出てくると思うんですね。免

許返納で、そういった方々にかぶっていただくには、子供たちからかぶってくれっていうとか、逃げられない仕組みみたいなものをつくったらいいんじゃないかなと思います。ぜひヘルメット、いい形で押しつけではなく進めていただけたらと思います。以上です。

○副会長 東ヶ崎委員

確かに絹代さんの話聞いて、ヘルメットを買うのにデザイン性も大事になってきて、もっとヘルメットを気軽に、夏場帽子をかぶるみたいに、気軽にヘルメットをかぶれば、自転車乗らなくても、歩行するだけでも気軽に帽子のようにかぶれるような、ヘルメットが出てくれば、そういうのがいいのかなという自分なんかもそういうふうに感じていますね。

○峰岸委員

去年の3月から那珂市内に自転車の店を引っ越しまして、ありがとうございます。地元になっちゃいました。

2週間ぐらい前、ちょうどお父さんと息子さんがね、ヘルメット買いに来たんですようちの店に。息子さんが中学生なんですけど、うちベルとかジロ、カスクとかね、いろんなスポーツのメーカー扱ってまして、自分ので、ベルのヘルメットを気に入っちゃってね、息子さんがね、でも、お父さんが、なんかもうこんな穴空いているは駄目だみたいな、もう拒否反応起こしちゃって、結局もう、ベそかきながら帰っていったとね。そういうまず大人の意識を変えないと駄目かなと思いました。

○絹代委員

全国でかぶっているお子さんの通学用のヘルメットは、工事用のヘルメットの構造なんですよ。工事用のヘルメットって上から落ちてきたものから頭を守るもので、転んで頭打ったときのものじゃないんです。なんかあれば自転車では頭を実は守れないんですよ。それを押し進めてしまったので、工場用のヘルメットが1番強いと思っている大人がいるっていうのが大問題で、ベンチレーションがあってパーンとわれてこないです。このあいだスノボで冬季五輪でその選手のヘルメットが割れた。割れたから頭が助かっているんですね。身代わりになって割れてくれるから。割れないと危ないんですよ。そういう情報も必要だなと思います。

○平田会長

その情報上げましょう。僕もあんまり知らなかったんです。

○事務局(渡邊主査)

今、小学校でかぶってるヘルメットの値段って、大体3千円ぐらいなんですね。それが、中学生がかぶってるものが果たして自転車専用なのかそれが工事用なのかっていうのはそれは確認しないと分からないんですけども、その辺もちょっと確認していきたいなと思います。

あとそのヘルメットサミットの話なんですけども、そのときにやっぱりヘルメットのメーカーさんがカブトさんかな。一緒にオンラインで参加してまして、メーカーさんもやっぱりいろんな工夫をして、いろんな種類とかいろんなデザインのヘルメット作ってるらしいんですね。ただ、自転車のヘルメットって、お店でもなかなかいっぱい種類が置いてないんで、見る機会がないんで、やっぱりそういう、何かアピールする場がもうちょっと増えれば、自転車のヘルメットの見方が変わってくるのかなっていう気はするんですけども。やっぱり自転車屋さんでもそんなに品ぞろえ何十種類も置けないと思うんで、本当に何かメーカーのカタログについても、本当にお年寄りからいろんな方向けにいろんな形のヘルメットつくってるんですよ。それがもう少しPRをしていかないと、なかなか難しいのかなと。格好いいとかデザインとかっていうのが気になるのであればもっとPRしていかないと難しいという感じがしました。

○平田会長

これは過去からずっと、こういう話題が続いていますので、年々進化して、那珂市方式を何か奇をてらうようなことをやってもいいかもしれませんね。

そういうチャンスは、結構あると思いますので、ぜひそういう活用していただいてね。よろしくお願いします。

○堀田委員

去年、おとし、ここ2、3年自転車ヘルメットの話ありましたけども、皆さんかぶるようになりましてね。大分見えます。高校生なんかも、去年なんかもやっぱり被らないなんて話ありましたけど。いやいや、みんな頑張っていますよ。絹代さん言っているように、やはり自分の個性のヘルメットかぶって。邪魔になるときは、リュックの上のところにとちょっと引っかけて、なかなかおしゃれで、駅なんかはもう自転車を置いたらすぐ、自転車のところにヘルメットを置かずに、リュックにちゃんとワンタッチでかちっとつけてみたいにリュックにつく。ヘルメットがつくホルダーがあるんですよ。ああいったものを親も勧めるみたいな、そういったことも大事なみたいなおしゃれですね、そういった子もたくさん増えてきております。

預けられたものよりも、多分あれは、親御さんも多分本人も、先ほどの峰岸社長のお客さんじゃないですけども、親は否定せずに、しっかり指導して、頭も体も事故から体を守るものですから、そこはしっかりやっぱりやってもらいたいなと思います。

やはり、以前に比べれば多少は数%でも、皆さん前向きでかぶってくれてると思います。はい。以上です。

○平田会長

はい、ありがとうございます。なんか着用率みたいな調査してるんですか。市で調査は難しいかもしれないけど、学生さんとか。

○事務局(渡邊主査)

長のほうが各校に赴きまして、校長に、できる限り着用のほうを推進してくれということで、直接赴いて依頼をして着用率を上げるという、警察としても努力しているところです。

さらに4月から反則通告制と切符というところもあるんですけども、その前に今現時点でも指導警告の部分ではあるんですけども、もう4月から違反になるので、もう見かけたらもう即、止めて、もう4月からもう切符切られるからね。ということで、話半分じゃないんですけども、特に高校生ですね、携帯をいじっていて前も見えないわけですから、特にそういったところで、実際のところそこで信号無視で突っ込んでいったということもあるものですから。そういった危険性も含めまして、まず、切符切られて完全に罰が与えられるその前に、まず指導警告の段階で、実際のところ、その違反の種類によっては酒気帯び運転もそうですけども反則通告制度ではなくて、もう即検挙という部分も確かにあるんですけども、そういったものではなくて、右側通行とか、一時停止とか、物によっては違反が重なると検挙するという形もなるのもあるんですけども、実際その水際のところちょっと指導警告でとどめて、今後、4月以降は、指導警告じゃ済まないんだよというところで特に高校生ですね。やはり、中学生なんかは携帯なんか持っていたりしませんですし、安全教育っていうところがきちっとやってるので、きちんと交通ルールを守って運転している子供が多いんですけども、今のところ警察署の交通課の交通のほうでやってるのは高校生以上、さらには高齢者の方に対して、ヘルメット着用とか、正しい走行の方法とかそういったところを、キャンペーンとかあと講話とかの機会に周知しているというところが現状ですね。

○平田会長

継続的にいろいろやっていただいて、警察の方もそんなたくさんいるわけじゃないから、もう大変だと思います。

○事務局(渡邊主査)

すいません先ほどのアンケートの件なんですけれども、日常自転車に乗ってる方に対してのアンケートで、自転車に乗るときにどういう安全対策をしますかっていうのを令和元年から6年まではとってたんですけども、努力義務化になるまでは、1%から3%ですねヘルメットを着用するっていうその安全対策、それが令和5年度の結果はもう30%、32%に上がっているんで、多分意識としては認知して上がっているっていうのはそれは事実だと思います。

○平田会長

30%ね。そうするとまだもう20%、少なくとも、そこなんですかねえ。だから、何かきっかけ、危ないって本当に納得すれば、被らなきゃ危ない、命が危ないと思えばそれは必然的に被るので、そのリスクの認知が弱いんですよ。

そういう何かいろんな事例とか今回の事故の事例なんか少し、お見せしながら、かぶっていただくということですかね。

○堀田委員

昨年、那珂市じゃないですけどかすみがうら市ですけども、毎年、ある高校ですけども、サイクリングを遠足ということで、片道 14 キロを往復 28 キロぐらいのサイクリング、1年生から3年生まで男の子の子女の子混せて、その学校では推進して、秋口にやるんです。ヘルメット何でかぶらないか、そのときには自転車乗り方からやるんですけど、サドル合わせて、フィッティングやって、それからヘルメットのかぶり方やるんですが、8割ぐらいはヘルメットを前と後ろ逆にかぶったり、これはどうやってかぶっていいか分からないみたい。8割ぐらいいます。自転車に乗れないっていう子は、1割いますけれども、その子は別に行きます。ヘルメットをなぜかぶらないのかっていうことを我々、ガイドのほうで聞いてアンケートをとったんですが、先ほど言っているとおりですね、カッコ悪い、暑い、それと、重い、そういうイメージなんですね。そういったものは今までかぶってこなかったから、これからかぶりましょうか、いや、かぶりません。なぜならば自転車はそういうスピードも出さないし、事故することもないからってということなんです、いやいやそれは違うということで、教育しながら、1日やったら、これから安全にかぶるようにしますということで皆さん確約を頂いたんです。やはりしっかり誰かが教えるしかないんですね、ヘルメットのかぶり方はこうです。なぜそうなのかということその場所でしっかり教えるしかないですね。倒れたらこうなります、ヘルメットは割れます。みたいな、そんな話ですね。

ですから、警察の方もそうでしたけど、ちょっと厳しいところもあるけども、やはり頑張って、今、壁になっていますけど、あと数年で多分同じようなことがなくなると思います。本当に地道な活動になるかもしれませんけど、オートバイもヘルメットをかぶるようになってるわけですから、自転車も同じなんですね、我々やってる子供自転車教室でも、未就学の子でもしっかり自分で、ヘルメットを選び、かぶり方をして、自転車に乗るときはヘルメットをかぶるんだっていう意識をしっかり持ってますから、あと数年たったらその子供たちも、中学校なり高校なりなってくると思うんで、皆さんに感化して被ってくれると思います。

○平田会長

はいありがとうございます。どうぞ。

○絹代委員

ヘルメットの話が続いているんですけども、今年というか4月からの動きで、もう一つ大きなものがあるとなれば、交通、安全教育のガイドラインというものを警察庁につくってもらいまして、それが12月に出了ました。それを受けた、自転車教室が恐らく新年度から始まってくると思います。

だからといって作ったから 100%全部の交通安全教室をやっている事業者さんとか、担当者さんがそれに基づいたものやってくれるかどうか分からないんですけども、内容としてはしっかりそれぞれのライフステージに合わせたものということで構成をしていただくようお願いする内容になっています。

プラス那珂市は交通安全教育をやっているということで、ちょっと資料からでは、どこが

主体になって警察の協力のもとになっているんですけれども、どんな内容なのかがちょっと分からないなあと思っております。

この中で、私たちが自転車教室をやるときにはヘルメットの中に豆腐を入れます。脳が豆腐と同じぐらいのかたさと言われているので、まずお豆腐を落としてお豆腐がぐちゃぐちゃになる。次に、お豆腐をヘルメットの中に入れて落とすとお豆腐が割れないというのを見ていただいたり、植木鉢を入れて、割れないよっていうのを見せたりして、この子供たちにどれだけヘルメットが大切なのかっていうのを見て理解してもらえるようにしています。

ぜひ、こういう教室の中で、ただ若干この模範で載っている方もヘルメットかぶってませんし、今の手を挙げて横断歩道を渡りましょうじゃなくて、京都などはもう手を挙げるのはやめていて、そうじゃなくてドライバーさんを見て、アイコンタクトをとってから、横断歩道を渡りましょう。子供は、手を挙げてそれで安心してそのまま突っ走ってしまうので、手を挙げるのをやめようという自治体が出てきているような状況なので、ちょっとそのどういう内容なのか分からないんですけれども、こういう中にしっかりこの交通安全教育のガイドラインを組んで頂いて、ヘルメットの大切さを小学校卒業するまでにしっかり身につけていただく。

プラスできれば、納得のいくヘルメットを未就学児がかぶってるヘルメットって多分軽いヘルメットなんでしょう今、OGKさんとかがつくっている。それが小学校に上がると、工事現場のものに近い重いものになってしまう感がありますので、できれば未就学児の安全教室をやっているのであれば、そこで、どういうヘルメットがいいのかプラス夏もかぶれるものでお子さんがこれから小学校中学校ってなって納得してもらうのが必要です。子供たちは頭が重いので転ぶと頭を打ちますみたいなことをしっかりと未就学の段階で行っていただくことが必要かなと思いました。

今後、今、警察庁が自転車ポータルサイトというのをつくっておきまして、交通安全教育のガイドラインが130ページという超大作になってしまって、誰も読めない内容になっちゃったんですね、情熱が高ぶり過ぎまして、今後、警察庁とそれを読みかみ砕いた誰でも読めるものにしたり、あとは学校がそれを使えば、学校の先生でも簡単に自転車教室ができるようなキットみたいなもの。もっと簡単な誰でもできるようなものにかみ砕いてポータルサイトに載せていけないかという話もしているんですけれども、もし連携がとれるようであれば、そういったこともちょっとその情報共有しながら、ぜひ那珂市の学校でも、そういう響くもので。

今回、事故の状況を結構詳細入れていただいたと思うんですけれども、恐らく歩道を走行していてそこから横断歩道に出て行ってひかれるというケースが多いのかなと。私たちが教室をやるときも、最近は見えないところから、突然出てくるとひかれるんだよと、横断歩道も歩くスピードじゃなくて自転車のスピードで見えない歩道から横断歩道に走り出ると、車が間に合わないからひかれるっていうのをすごく時間をかけて教えています。あと交差点で何をしなきゃいけないか音を聞く、見る、止まるみたいなことを教えているんですけれども、ぜひこれだけ詳細なデータがあればこの内容を踏まえて、どういう行為をしたらいけないのかっていうことにピンポイント絞ってお子さんたちに伝えていかれるような、内

容になってくれたらいいなと思います。ぜひその実態に合った何を教えたら、事故が減ってくるのかという部分を、ぜひ意識をして教えていただけたらいいなと思います。

思いやり運転の周知啓発に関しても、今年4月から側方通過に関するルールみたいなものが決まりまして、自転車を含む電動キックボードを含むものの横の側方を通過する。車は十分な距離をあげなければいけないというルールが始まりまして、そこも、もうルールとして、今まで思いやりという感じだったんですけども、今後はルールになってきますので、ここもせっかく那珂市さんこのPRはやられているので、しっかりとお伝え頂けたらというふうに思います。

ちなみにその78歳の方の死亡事故に関してちょっとさらっと言ってしまったんですけど、どういう状況だったのか。もしお分かりでしたら情報共有していただけたらうれしいです。

(那珂警察署の入江委員が事故状況の説明していましたが、音声が無録音でした)

○平田会長

この参考資料の事故の5ページ目にこの発生場所のさっきの9番ですよ。今の話、自転車のネットワーク整備したところの車道だから。そこはケアしたほうがいいかなと思います。今の話、ちょっとイレギュラーな横断をしていたので、ほかにも2番7番5番はこのネットワーク計画で整備したところなんです。そういうところで、歩道とか交差点内って書いてあるから、那珂市も車道順走してても事故があるってのは、何か結構目立つし、それでもある意味、車道順走の遵守率が高いっていう、あくまで事故数なので、本当は自転車の走行台数で割らないと事故率のリスクはでないから別に数が多いから危ないわけじゃないんですけども、順走してても事故が起きているっていうところはちょっと、毎年気になっているんです。毎年コメントしてます。

そこがイレギュラーなことで起きてるんだったらそれは教育の問題になりますし、これ78歳の方ですからね、ほかはネットワーク以外なんで、こういうリアリティーのある事例、事故は起きちゃいけないですけど、起きたこういう過去の事故はうまく有効活用しながら教育に生かすリアリティー高いですからね。小学生がそのリアリティーの高さがどこまで伝わるかわかんないけど、でも仮想のやつよりも何かいいかもしれないので、ぜひこういうのを有効活用していただければというふうに思います。

今回の事故、自転車の矢羽根だと思いますけど整備したところで車道順走してたけど、事故が起きたみたいなのはありますか。この中で、皆さんそこまでちょっと記憶はないですかね。

この2、7、5です。多分、本編の地図見ると、整備済みなんです。よ。

○絹代委員

ライトは、皆さん点灯しているんですかね

○入江委員(代理)

大体自動点灯が今はやりなので、ライトはだいたい点けてます。

(約1分間 未録音)

○平田会長

だから歩道走っていれば安全っていうのはまず神話みたいなもので、でもだから歩道を走るなら車道側をしかもゆっくりっていうかですね、交差点でぱっと出ないとか、そういう横から出てくる車に引っかけられるリスクは極めて高いので、先ほど絹代さんおっしゃった通りそういうことが、分かっているならば、無理してぱっと行かないはずなんですけど、そんな意識なく行って、バンとやられる。そこも教育の世界ですよ。

(約1分 未録音)

○絹代委員

今回ビジョンを立てまして、より何のためにこれをやってるのかっていうのをやるためのビジョンを検討したんですよ。みんなで話し合っ、何でこれをやんなきゃいけないのかっていうのが伝わるような形にしました。

それには実は各国のビジョンというのがちょっとそのネタとして時間があればと思ったんですけど。ヨーロッパがものすごく踏み込んで、今自転車をやっていて、例えばドイツのビジョンはモアベター、アンドセーファーサイクリング、移動は全ての人にとっての基本的なニーズで、自転車はサステナブルで日常、非日常の適用力があり、非常に経済的で健康によく、2030年には自転車は当たり前でかつ多様なものになり、人々は自転車を楽しみ安心して乗れるようになるみたいなことを言い切っていたり、フランスはキャッチフレーズとして、自転車とウォーキングを全てのフランス人の日常生活の一部にすると、もう政府が出してるんですね。それくらい今環境問題も非常に深刻になっていて、特にヨーロッパは自転車に車からシフトして、ウォークアブルなまち、車が行きかうまちよりも安全に歩いて安全に自転車で低速に運動できるまちに変えていこうという動きがあります。それを受けて日本もしっかりと自転車にシフトしていく、健康面でもやっていこう、ツーリズムでもどんどんインバウンドを自転車で楽しんで頂けるようにしていこうというふうに、動きが、最初に冒頭に平田先生からお話があったように動きが変わりました。

ぜひこれを受けて、ちょっと思ったのは那珂市も自転車を市民の方々に乗っていただきたいと思うのであれば、モデルルートの、ここを一周すると生活習慣病になりにくくなりますみたいな、ごく簡単なちょっとした距離のもの、これを1週間に2回ぐらい走ると転倒防止になってアンチエイジングで体もすごくよくなりますみたいな。誰でも取り組めるようなアイデアをもっともっと出していただいで、その中で自転車を楽しんでもらって楽しみながら、ルールも守るヘルメットもかぶるみたいなポジティブな流れがつかれたらいいのかなと。国も今回から健康とかそういったところをもっと押していこうというふうに変ってくるので、ぜひその一歩先に行く形で、健康も市民の方があんまり深く考えず、これをやってる

と股関節の可動域も大きいし、日本人によくある転倒して大腿骨骨折みたいなことも防げる。あと糖尿病の予防に非常に効くので、何かそういう誰でもできそうなルートをちょっと提案する。何百メートル何キロ走るといいですよとか、食後にちょっと自転車乗ると血糖を使うので、糖尿の予防にすごくいいですよとか、誰でもできるようなことを少し、一緒に提案していただけたら、町の雰囲気も、その義務的じゃなくてね、自分のために楽しくてっていうところに変わるのかなあと思います。以上です。

○平田会長

ビジョンの大事なところはそうですね。ぜひ多分、今年度、閣議決定となり来年度にかけてオープンしますので、それが決まって、見てからでもいいですけども、那珂市さんも計画の見直し。計画は10年計画でしたっけ、11年でもう少しありますけど、そのタイミングでもいいし、中間で少し、計画体系を変えるとか、国が変わりますので、国が変わって県は変わるのかな。

○事務局(渡邊主査)

県は多分9年度に変えます。

○平田会長

再来年だから那珂市はそれより先にやると。先にやると、県とも足並みそろえなきゃいけないですけども、そういう意味で国も変わってきますので、そのビジョンをどうしていくのか。

僕も(県のビジョン)つくったとき、外のサイクルツーリズム向けじゃなくて市民に向けてということで、市民をということをまず出してもらったし、安全もちょっと上げてもらったので、そういう意味では、今の新しい基本計画に合っているのですけども、そのビジョンともう1回ね、国の計画を見ながら作り直してもいいかなって感じがします。

所詮ビジョン、されどビジョン。一番重要なことが共有できるということが、結構大きいので、よろしくお願ひしたいと思います。

すいませんそれじゃ、吉岡さん、スポーツ推進課の方がいませんが、県全体を代表して、コメント頂ければと思います。

○吉岡委員(代理)

代表というわけではないんですけど、ちょっと資料の中で、サイクルサポートステーションの登録が那珂市さん、かなり増えているということなんですけれども、県におきましても、今、県はサイクルツーリズムということで、県南の代表されるつくば霞ヶ浦りんりんロード、こちらはもうかなり県内外から外国からも来るような、利用者が多い、コースになっているんですけども、やっぱり利用してる方から、トイレとか、あとはそういう休憩施設、あと飲食店、そういったものが、場所が分かりづらいとか、どこにあるんだ、少ないとか、何かそういった声がやっぱりありまして、県のほうでも、そちらへの案内ルートだとか、何かそういう標識建てるとかですね、そういった何かこう、もうちょっと、協力してくれる、サポートステーションなん

かも増やしてできないかっていうことでちょっと見直しというか、検討を始めたところなんですけれども、那珂市さんにおいてもこれだけやっぱサポートステーションがあるので、こちらへの、SNSとかでは発信しているのかなと思うんですけども、実際、現地走っててここに何かがあるよかっていう、そういう何か案内的な何か整備というか、そういったものって何かあるんですか、ちょっと参考までにちょっとお聞きしたいなと思ひまして。

○事務局(渡邊主査)

実は案内っていうのは、特になくて、一応サイクリングのルートマップがあって、それを那珂市のホームページに掲載しているだけなので、今後はルートの見直しも含めてデジタルマップっていうかグーグルなどちょっとこういろんなお店紹介とか何か、見直しをしていこうっていうような今考えは持っています。

やっぱりどこに何かあるっていうのは、サポステって本当にお店が多いんですけども、コンビニとかが多くて、年末にお店にお話を伺いに行っても、あんまりその自転車のジャージ着て、自転車ラックに引っかけるような人って来ないですよ、一部の店舗は結構来てますよっていうところもあるんですけども、そういうところだとラックを片づけてしまうんですね。仕舞ってしまう。その辺もちょっとルート見直しとかやっぱりサイクリストっていうかその自転車の方に情報提供をもっとしていかないと、どこに何かあるかってのは多分分からないと思うので、その辺を、見直しと同時にちょっと強化をしていこうというような考えを持っているところです。

○吉岡委員(代理)

昨年 11 月に国交省の常陸河川国道事務所で、「茨城県自転車ネットワーク計画調整会議」の準備会が開催されまして、那珂市さんにおいてもWebで参加されたと思いますが、この会議は、国・県・市町村が連携して自転車活用推進計画の策定を働きかけ、茨城県内の自転車ネットワークを構築していくことを目的としております。

現在、県内44市町村のうち、13市町村で計画を策定している状況でございます。

今年度は13の市町村を対象として準備会が開催されましたが、来年度は44の全市町村を対象として調整会議が実施される予定です。

○平田会長

自転車って全ての部局に絡む話なのでこうやって皆さんそろって出てきてくださるのは本当に大変ありがたいです。ぜひ、那珂市一丸となってですね。市民にとって自転車になぜそんな頑張っているのかと思っている人も、もしかしたらいるかもしれないけど。

さっき絹代さんに紹介してもらったように、世界は、ああいう昔ながらの乗り物にやっぱりよく考えても、究極の乗り物っていうか、効率的ですね、エネルギーも使わない、ちょっと電動は電気力もかかりますけれど、エコだし健康にもいいし、道路渋滞にもいいですし、そういう意味ではこれだけ見なおされているので、メリットというアドバンテージを都市交通政策というか、地域計画の中で積極的に位置づけて本気でやると本当に変わるというかね、

そこでやっぱりビジョンが重要になってくるので、ぜひここまで、やられているので、那珂市さん、先ほどの茨城県さんが横展開するときのお手本なれるように頑張ってください。

はい、よろしく願います。よろしいでしょうか。

○秋山市民生活部長

ひとつ那珂市ではないんですけども、那珂市で台湾のほうに来年、市民を連れて、あちらでやっているサイクリングイベントに参加することを来年実施する予定です。

今、市民向けの募集をしているところで、ある程度、もう参加していただきたい人数がほぼ集まってきている状態だということです。

台湾のほうに行って、約1日かけて 70 キロ、台湾の小学生、もう本当に低学年から大人がサポートしてって、競争的なサイクリングではなく、環境問題や、向こうで言う日本で神社とかお寺仏閣を回って歴史を学んで頂くという、20 年以上やっている団体がありまして、その団体のサポートで、那珂市の市民を連れて参加するというのを今年の5月に、実施することになっています。

○平田会長

なかなか良いですね。そういう費用は

○秋山市民生活部長

全額ではないですけども、一部市民に負担をしてもらって市が補填するという形でいくイベントになります。

○平田会長

ぜひそういうのをPRしていただいて。そういう、国際的な活動も展開されているということで、ますます期待を持っていますね。

皆さん貴重なご意見、コメント・アドバイスありがとうございました。今のご意見、踏まえてまた次年度の計画、予定は一応書いてありますけども、引き続き継続してやることと、今日のご意見を踏まえて、少し工夫をしながらより前に進める方策も、事務局で検討していただいて実行頂ければというふうに思います。

絹代さん、また次年度以降も、疲れない程度で、ご支援頂けると大変ありがたいと思います。

○絹代委員

せっかく自転車も買ったので、あれをリンネさんで利用できれば、これから先につなげていければいいなと思っているので、これでまた終わりじゃなくて、リンネさんや県も含めて、この先につなげていけたらと思います。よろしく願いいたします。

○平田会長

今日ちょっと長い間時間がかかりましたけども、これで、協議の時間を終わりたいと思います。

これで事務局にお返しいたします。よろしく申し上げます。

○事務局(小関課長補佐(政策企画グループ長))

平田会長、委員の皆様、長時間にわたりまして慎重なご審議を頂き、誠にありがとうございました。

次第の4、その他について、委員の皆様から事業の案内や連絡事項等がありましたら、お願いしたいと思います。

なければ、事務局より説明があります。

○事務局(渡邊主査)

皆様、本日はどうもお疲れさまでございました。

委員の任期の件になります。現在の皆様の任期が2年間ということで、今年の4月30日までとなっております、2年間にわたりまして本当にありがとうございました。

そこで、また次期につきましても当協議会の委員の皆様に、また再度、委員を引き続き継続をお願いしたいというふうに考えております。後日、改めまして、皆様のご意向をお伺いするようなご案内を差し上げますので、再度考えていただきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

それから本日出席した皆様に交通費と謝礼をお支払いいたします。去年の口座情報があります。その口座に変更であるとか住所が変わったという方については、帰りに事務局のほうまでお申出頂ければと思いますのでよろしくお願ひいたします。

その他は以上でございますよろしく申し上げます。

○事務局(小関課長補佐(政策企画グループ長))

それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回那珂市自転車活用推進協議会を終了いたします。皆様本日は長時間にわたり大変お疲れさまでした。ありがとうございました。